

（さっぽろ障がい者プランに定める重点取組「事業所の質の向上の取組」）

実施可否欄及び対応可能な障がい種別欄に○印を記入し、本用紙を提出してください

アセスメント 実施手法	具体的な確認内容	実施 可否	対応可能な障がい種別		
			身体	知的	精神
アセスメント実 施計画書	事業所としてアセスメント実施計画書を作成し、それを活用して体系的に記録・判断できる ※アセスメント実施計画書(計画内容、実施方法、評価基準、就労アセスメント表、利用者へ提示するフィードバックの様式を含む)を添付	○		○	○
標準化検査	実施方法(ツール、手順など)を以下に記載 『就労移行支援のためのチェックリスト』を活用し、アセスメント実施計画書の就労アセスメントシートと連動させながら実施。	○		○	○
職務(環境・課 題)分析	実施方法(視点、ツール、手順、場面設定など)を以下に記載 ※環境と共に職務の内容や一連の流れ、構造を分析できること(ワークサンプル、模擬的就労場面等と関連付けて実施できること。例えば「就労支援のためのアセスメントシート」における環境の視点を有すること) ワークサンプルや模擬的就労場面、職場実習から、職務への適応や職場での適応行動及び態度が取れるか。職場のルールや指示を理解して守れるか、体調・疲労・ストレス・不安・感情のコントロールが可能かどうか。コミュニケーションや対人マナー等について、就労アセスメントシートにも照らし合わせながら実施。	○		○	○
ワークサンプル	実施している機器の種別(※)、実績(複数の使用年数・件数)及び具体的な実施・評価方法を以下に記載 ※ワークサンプル幕張版等 自社独自の数値や文章入力等のOA作業や、請求書作成や作業日報集計等の事務作業、ピッキングや重さ計量等の実務作業を通じて、職業適性や基本的労働習慣のアセスメントを行う。手順の理解度や集中力、作業の正確性や速度等、ストレングスになり得るかどうかも含めて評価基準に沿って評価していく。	○		○	○
模擬的就労場面	事業所で実施する場合にどのような環境で、どのような就労場面を設定できるか ※マニュアルや実績等の添付、または可能な手法を以下に記載 施設内でコーヒー粉の計量やドリップバッグへの封入、シーラー機による梱包作業を通じて、食品梱包等の就労場面の設定を扱う。 また、顧問会計士事務所の協力の元、記帳代行等、オフィス業務を想定した就労場面も設定可能。	○		○	○
職場実習	職場実習の実績があり、必要とされるアセスメントを実施できる(具体的な実績を以下に記載) 施設外就労先の食品加工工場では、制服を正しく着る事が出来るかや、衛生面等のルール理解等を確認。また、食品を加工する工程も複数理解出来るかや、正確かつ生産数を確保しながら作業を進められるか、協調性やコミュニケーションも含めてアセスメントを実施。	○		○	○

※上記6項目中4項目以上の実施が可能であり、かつそれぞれの項目において複数の障がい種別に対応可能であることが必要

※どのようなアセスメントが実施可能なのか利用者に分かりやすく示すこと（例：別表を拡大等して事業所内に掲示、利用者に個別に配布・説明）

※記載欄が不足する場合は欄の追加または別紙の添付可